

静間小だより

～気づき 考え みんなで創り出す～ 令和6年 12月号

「気づき 考え みんなで創り出す」⑧

～「学習の成果発表」「校内授業研究会②」～



1年生

11月16日(土)の学習公開日に、学習の成果発表を行いました。多くの保護者の方にご来校いただきました。誠にありがとうございました。皆様に見守られながら、子どもたちは自信をもって、うれしさいっぱい発表することができたと思います。

練習のたびに、成長や課題に「気づき」、次の目標を「考え」、学級みんなで「本気」で創り上げていきました。子どもたちは、発表を通して多くのことを伝えていました。それは、学習内容だけでなく、「やる気」、「一生懸命さ」、「楽しさ」、「うれしさ」、「自信」です。これまで、貴重な学びができたことの表れだと思います。

私は、各学年の発表に対して、

- 1年生・・・「大きくなったな。成長したな。自信をもって発表しているな。」
- 2年生・・・「多くの学習をうまくまとめて、可愛らしく発表しているな。」
- 3年生・・・「感情をこめながら、自分たちの力だけで上手に創っているな。」
- 4年生・・・「分かったこと、できるようになったことを楽しく伝えているな。」
- 5年生・・・「宿泊体験活動の成果が、一人一人の中にあることがうれしいな。」
- 6年生・・・「6年生ならではの学びや楽しさが伝わる、心に響く発表だな。」

という思いをもちながら、子どもたちの発表を見ました。今後の学びやくらしにつながる貴重な学習活動でした。保護者の皆様、ありがとうございました。



2年生



11月22日(金)、授業研究会を行いました。5年担任の田淵教諭が授業を公開しました。教科は算数、単元は「割合」でした。異種の2つの量を数学的に比べる時には、「1あたりの数量」を割り出して比べていくこと、「くらべたい数量が、もとなる数量のいくつ分か」を割り出して比べていくことが求められることを5年生は学んでいます。この日は、「くらべたい数量が、もとなる数量のいくつ分か」つまり「割合」を学んでいきました。5年生は、『120円を90円に値下げした店と100円を70円に値下げした店では、どちらがより大きく値下げをしたと言えるのか』という学習課題に対して、「120円をもとにした時、90円は何倍にあたるのか」、「100円をもとにした時、70円は何倍にあたるのか」を数直線や式を用いて、数学的に証明していきます。それぞ

れ、0.75倍と0.7倍となり、『1未満の割合』をどのように解釈していけばよいか迷いがあったと思いますが、『もとのいくつ分で比較をする意味や必要性』を実感していくことができたと思います。



11月28日(木)にも授業研究会を行いました。4年生担任の岡田教諭が授業を公開しました。教科は算数、単元は「面積」でした。『L型の複合図形の面積』を、「2つに分けて合わせる」、「全体から欠けている面積を引く」、「L型を長方形へ変形する」など、長方形の面積の求め方を使って、様々な方法で求積することができることに気づき、図形に対する感覚を磨いていく学習でした。4年生は、一つの求め方だけでなく、様々な視点で図形をとらえてL型図形の求積をしていきました。そして、長方形の求積方法を使えば、多くの図形の面積を求めることができることに気づきました。

11月 全校朝礼から



全校朝礼で、子どもたちに科学の話をしました。左は水道パイプにてんとう虫のイラストがくっついている写真です。パイプ上部についているてんとう虫ですが、水を入れてパイプをひっくり返すと、このてんとう虫は上に上がっていきます。なぜ、てんとう虫のイラストは上がっていくのでしょうか。子どもたちに問いました。「静電気が働いている。」、「磁石を使っている。」ということに気づきました。「磁石の働き」です。ただ、磁石のどんな性質を利用しているのか、水がどんな働きをしているのかを具体的に説明できる子どもはいませんでした。こうしたしかけは、子どもたちの主体性を引き出す一つのきっかけになると思います。

固体は、外部からの影響を受けない限り、重力によって下へ落ちていきます。これは自然の摂理です。固体が上に上がる場合は、外部からの影響(気流や動力など)を受けた場合です。例えば、風船や熱気球、飛行機、エレベーターなどなどです。てんとう虫のイラストが上に上がるということは、何かしら外部からの影響を受けているということです。実はこの現象、4年生以上なら解明できる謎です。理科で学習したことを活用し、思考すれば解明できます。

「なぜ?」、「こうなっているかな?」、「解決したい。」という気づきから、試行錯誤しながら考えて、一つの結論を、根拠をもとに導き出していくことが探究であり、「気づきから学びを創る」ということだと思います。

スサノオマジック選手と「夢授業」



11月20日(水)、スサノオマジックのコティ・クラーク選手と谷口大智選手を招いて「夢授業」を行いました。3校時には、2名の選手から、「バスケットボールとの出会い」や「くらしの中で大切にしていること」、「嫌いなことや苦手なことでも経験を積んでほしい。それが自分の将来の支えとなること」など、多くのメッセージを送っていただきました。4校時には、選手を交えてバスケットボールのミニゲームをしました。プロ選手のプレーに子どもたちは感嘆の声を上げていました。

この「夢授業」を通して、「自分の将来を自分で切り拓くために必要となる経験や考え方」に気づき、「夢や目標に向かって努力していく意味」を学ぶことができたと思います。